

科 目		必・選	担 当 教 員	学年・学科	単位数	授 業 形 態						
技術者倫理 (Ethics for Engineers)		必	田村 敏雄 後藤多栄子	2年生 メカトロニクス工学専攻 エコシステム工学専攻	学修単位 2	半期 週2時間						
授業概要		工業倫理、田村敏雄による集中講義、そして、後藤多栄子による企業コンプライアンスを含む知的財産権の講義をおこなう。 ビデオ教材や文献調査の事例研究を通じて技術者倫理の問題を学び、レポートや報告を通して理解を深める。										
到達目標		技術者としての義務、責任を総論として学習し、具体的な事例に含まれる問題点を明らかにする。技術者の深層の“こころ構え”の問題が、最重要であると認識し、そのため実事例や仮想事例を考察することによって、追体験による問題解決のための認識を高めることが出来る。また社会に対する技術者の責任を理解し、地球・地域環境にいたる深い洞察力と多面的考察力を身につける。 このためこの授業を通じて目標とする能力は以下のとおりである。  1、最近の技術者倫理上の事例の課題に対する報告やレポートができる。 (A-b) 2、工学技術上の諸問題について自然や人間との調和を考えながら、問題点と改善案を提案できる。 (A-b)										
評価方法		到達目標に対し、レポートやプレゼンテーションを行う。担当時間の割合で総合評価を行う。それぞれの受講者が以下のような評価判断でCランク以上取れば達成したとする。 ＜評価の判断＞ Aランク：よく調べられて簡潔でわかりやすい。 (90～100点) Bランク：よく調べられているが説明が簡潔でない。 (70～89点) Cランク：調べてはいるが少し説明が物足りない。 (60～69点) Dランク：報告しない、もしくはできない。 (不可)										
教科書等		【教科書】技術者による実践的工学倫理 中村収三・(社)近畿化学協会(化学同人)編著 産業財産権標準テキスト(総合編)並びに ベーシック経済法 第3版 独占禁止法入門 川濱昇他著 有斐閣アルマ										
内 容		(110分授業を15回実施する。なお、1回の自宅演習は240分を目処にする。)				学習・教育目標						
第1回	技術者倫理序論：倫理規定、技術者の位置づけ：JABEE/ABET等認定と国際比較 (自宅演習)				A							
第2回	技術者倫理と技術倫理：事例研究1(個人レポート、グループ討議・発表) (自宅演習)				A							
第3回	事例研究2：(個人レポート、グループ討議・発表) (自宅演習)				A							
第4回	技術者と倫理：企業倫理、製造物責任：PL法、訴訟事例研究、欧米比較 (自宅演習)				A							
第5回	事例研究3：(個人レポート) (自宅演習)				A							
第6回	倫理問題への対応：公益通報者保護法、実践的倫理のすすめ (自宅演習)				A							
第7回	企業と法令遵守：基本理念 (自宅演習)				A							
第8回	コンプライアンスと市場競争 (自宅演習)				A							
第9回	競争と独占：独占禁止法・不正競争防止法(NTT光ファイバ事件など) (自宅演習)				A							
第10回	知財権という独占権と独占禁止除外規定について(ソニープレステ事件) (自宅演習)				A							
第11回	私的独占(インテル事件) 不当な取引制限(カルテル・入札談合) (自宅演習)				A							
第12回	不公正な取引方法(優越的地位の濫用・再販売価格拘束・不当廉売等) (自宅演習)				A							
第13回	著作権法：データベース著作物 商標と意匠事例 (自宅演習)				A							
第14回	特許法：特許制度や特許申請 (自宅演習)				A							
第15回	学生による事例報告 (自宅演習)				A							
(特記事項)		JABEEとの関連										
時間割の都合上、90分授業になれば18週行う。そのため3週を追加し、補う。		JABEE	a	b	c	d1	d2a)d)	d2b)c)	e	f	g	h
		本校の学習	A	A	C	C	C	B	B	D	C	B
		・教育目標										

合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

## 技術者倫理 専攻科第2学年 必修

### 第1週～第6週：【田村担当分】

本校に学ぶ学生の多くは、社会に巣立ちエンジニアとして企業という実業の場に生きるであろう。また、大学や研究所の学問の府で、研究者として業務に勤しむであろう。自然科学での理学分野であれ工学分野であれ、絶えず目的に向かうプロセスにおいて、成功・失敗にかかわらず多くのリスクと対峙する。

そのリスクの回避や克服のためには、事実や現実と対峙し、無意識の上にあっても高い倫理性の認識や判断が重要である。その認識、判断、決断を陶冶するには、実社会での企業活動、組織運営における体験や不可欠である。この授業は、専門技術教育というより、追体験（事例研究）により実践的啓蒙をおこなう。

- 1) 集中講義タイプの授業とする。（通年2日間、90分X8回）
- 2) 教科書「技術者による実践的工学倫理」の内容を基本に進める。
- 3) 「実践的」授業が不可欠である。事実の取材に基づいた公共メディアの「ビデオ映像」鑑賞、時事的な「新聞記事」等の媒体を資料教材として活用する。
- 4) さらに、仮想事例や内外の学協会の倫理規定を引用し参照する。
- 5) これらから、各自にレポート作成を求め、またグループ討議と口頭発表等のコミュニケーションにより、双方向性の授業する。
- 6) 最終的には、工学的倫理問題への対応と倫理的課題に対する予知、予防の感性を高める。
- 7) 実例として、チャレンジャー事故、シティコープビル物語、東海村核燃料臨界事故、論文捏造事件等を検証する。

### 第7週～第15週：【後藤担当分】

技術者にとって不可欠な知識である知的財産権に関する基本的な法体系（独占禁止法・特許法・商標法・意匠法・著作権法・不正競争防止法）を理解する。技術者にとってどこまでは許される行為であり、何をしては技術者倫理に抵触するのかを考えるために複数の事例研究を行いながら講義を行う。特許取得のための検索や調査方法そして明細書の書き方などの理解を深める。